

終章 グローバル化社会を探求に向かって

§1. グローバル化経済は安定するのか

- ・ 開放的経済社会が成長と関連することは明らかだが、それは同時に「景気循環」（生産力が無いことから生じる貧困ではなく、生産力が過剰となる貧困＝**poverty in prosperity**）の復活や成長の極と周辺との格差の拡大などをもたらしている。
- ・ 市場が安定するためには、「市場の失敗」が無いことが前提となる。そのためには①完全市場（外部経済などはなく、公共財などもない）、②完全競争（すべての生産者と消費者は無差別な競争主体であって、価格受容者 **price-taker** である）、③経済体系は凸環境 **convex environment** を満たしている、などが存在しなければならない。
- ・ だが、こうした諸条件は現実には不完全にしか存在しない。そこで適切な公共財などが供給されなければならない。
- ・ そうした公共財の一部は地方自治体や政府によって、また **NPO**、**NGO** などによって供給されるが、他の一部は国際的に供給されなければならない。しかも、グローバル化によって国民的安定装置の一部は機能不全となりつつある。
- ・ 国際公共財は、供給できる能力と意志をもつ中心国が供給しなければ安定的に供給されない。過去の安定期 **Pax Britanica**、**Pax Americana** の時代は過ぎ去った。では、どのような国際関係を創出するべきなのであろうか。

§2. グローバルな政治社会はどこへ向かうのか

- ・ 社会はグローバル化しているが、政治社会は依然として国民的システムを中心としている。しかも、中心国は一層「国民的」「国権的」となっている。
- ・ グローバル社会では、当初は自由市場と民主主義が支配的となると考えられた。だが、国際的な対立やエスノ・ナショナリズムによる紛争や緊張は逆に増大してきた。それは、単にグローバル化社会へのマージナルな反発なのであろうか。それともグローバル化社会の宿痾や「死に至る病」なのであろうか。
- ・ 地域的統合や **NPO**、**NGO** さらに国際機関などの活動はグローバル社会の政治的変動にどのようにかかわるのであろうか。

- ・ 現代社会には、歴史的に見て極めて大きな問題が投げかけられている。現代の社会科学は「教科書」に安住できる状況にはもはや無い。現在進行中の論争と今後生じる緊張に対して学問的な挑戦が必要とされ、また確かな知識をもって行動する知識人としての社会人が必要とされている。
- ・ 講義で残した基礎的問題も多くある。この講義の後により深く、広い思索に向かってほしい。

了